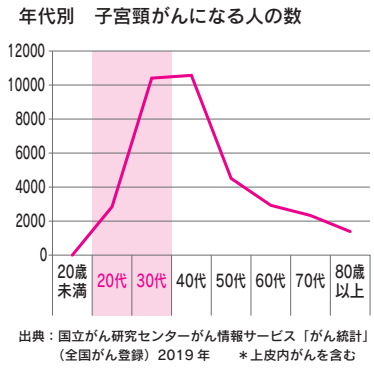


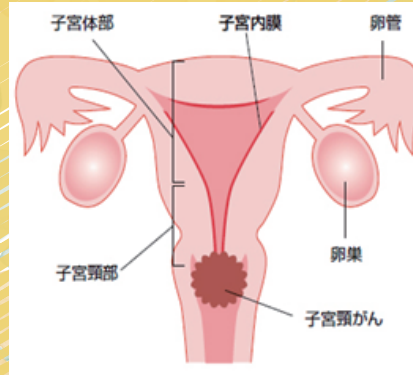
## 子宮頸がんは、若い世代の女性のがんの中で、多くを占めるがんです



子宮頸がんは20歳代後半から増加し30歳から40歳代の子育て世代に多くなっています。

子宮頸がんで亡くなる人は、30歳代から増加します。

## 子宮頸がんは、HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が主な原因です



日本産婦人科学会

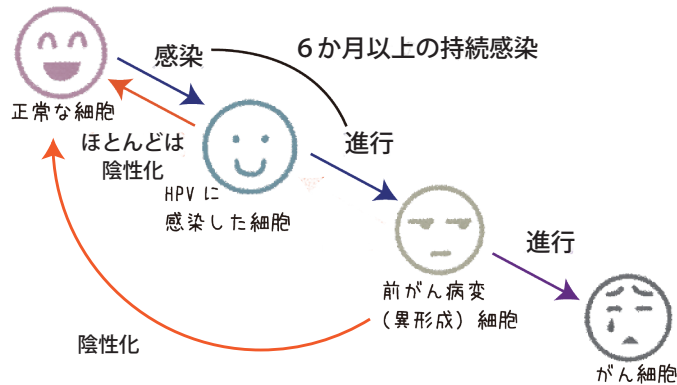
HPVは、主に性交渉で感染します。

HPVはごくありふれたウイルスで、性交経験のある女性の多くが、一生のうち一度は感染するとされています。

## 早期に発見して治療すれば、90%以上が助かります\*

HPVに感染してから、数年から数十年で一部ががんへと進行します。

### 子宮頸がん細胞の発生メカニズム



定期的に検診を受けることで、がんになる前を見つけることができます。

早期に発見できれば、子宮を残し、妊娠や出産が可能な状態で治療することもできます。

\*ここでいう「助かる」とは、診断時からの5年生存率です。

### ちょっと気になるQ&A

Q 家族に子宮頸がんになった人がいないので、かかることはないですか？

A 子宮頸がんは、ウイルス感染が原因のため遺伝に関係なく、誰でもかかる可能性があります。2年に1回の検診を受けましょう。

Q 子宮頸がんにかかると、どのような症状が現れますか？

A 初期の頃にはほとんど自覚症状はありません。下記のような症状がある場合は検診を待たずに医療機関を受診しましょう。  
 ・生理の時以外の出血  
 ・性行為による出血  
 ・おりものの異常  
 ・下腹部の痛み など

Q 子宮頸がん検診は2年に1回で大丈夫ですか？

A 子宮頸がんは一般的に非常にゆっくりと進行するので、2年に1回の検診が推奨されています。出産後も継続して受け続けましょう。

\*検診で「精密検査が必要」と判断された場合は必ず精密検査を受けましょう。